

（午前10時45分 再開）

○議長（中上良隆君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番16、15番 石橋君。

〔15番（石橋英和君）登壇〕

○15番（石橋英和君）よろしくお願ひいたします。

さきの選挙で初めて議席をいただきましてやっと1年が経過いたしました、その間、多岐にわたりましてご薫陶賜りました議長はじめ先輩議員皆さま方、また経験の浅い1年生議員の私に親切にご指導いただきました関係各位に皆さま方に対しまして、まずは衷心より御礼を申し上げます。

思えば、わずか1年前までは一市民の立場で地元産業界に身を置いてまいった私でありますので、つついそのままの立場で物を考えてしまい、議員になり切れていない自分に対し、しばしば反省をいたしてまいりました。がしかし、またその反面一市民の気持ちのままに本市のまつりごとを直視し、そこからわき上がってくる素直な情熱を議員活動に反映していきたいとも考え続けてまいったこの一年間でございました。ともあれ未熟な1年生議員でございますので今後ともよろしくご指導いただけますようお願い申し上げます。今回質問席に立たせていただきましたのは、行政当局に対し具体的な事例についての答弁をいただく目的ではなく、市長に対し提案させていただきたいことが1件ございますので発言の場をいただくものでありまして、この提案に至る経緯、またその背景にあるものにまで言及する必要があり、そのため若干抽象的

な表現がまじりますがお許しいただきたいと思ひます。

古くから皆さんよくご存じの言葉に「病は気から」という言葉がございます、病気でもない人が、病気だ病気だと思ひ続けたら、いつの間にか本当の病人になってしまっている。逆に、病気なのに自分は元気だ元気だと思ひ込んでいたら、知らないうちに病気が治ってしまっている。人類最後の敵と言われているがんですら、告知後、本人の治りたいんだという強烈な意志の力で治療を待たずに病巣が消滅してしまっていたという話さえ聞いたことがあります。

病気と似た言葉に景気という言葉がございます。「病は気から」、そしてまた「景気も気」からだとは私には考えるものでありまして、人の気持ちが景気に及ばず影響は極めて大きいものがあると確信いたします。

毎年、日銀をはじめ、多くの機関がさまざまな景気予測を発表していますが、どれをとりにしても極めてあいまいな表現で、どちらともとれる言い回しに、いらだちを覚えます。たかだか半年先の景気を予測するのに、大量のデータを巨大なコンピュータシステムに入力し明解な答えを得ようとしています。しかし、発表されるのはどれもとりましてもあいまいな表現ばかり、その理由はどうしてもコンピュータが答えてくれないものが一つあるからでありまして、それは人の気持ちの部分であります。

さて、随分と長きにわたりまして低迷してきた橋本市の景気ではありますが、京奈和自動車道橋本道路の開通、市脇清水架橋の完成、道路特定財源の復活に伴う371号バイパス完

成の具体化など、長年の悲願が達成されつつある現状において、久々の明るい話題の中、地元産業界に景気回復に向けて、かすかな明かりが見えてきたような気がしているのですが、皆さま方はどのように感じておられますでしょうか。

また、本下市長を先頭に行政当局が精力的に推し進めてこられました企業誘致活動が確実な成果となって現れ始め、近い未来、近い将来、かなりの数の雇用が見込めること、またそれらの誘致企業が今後いろんな形で市内に金を落としてくれるであろうこと等々、県下を眺めましても群を抜いて、我が橋本市の経済は成長していける要因を蓄えていると考えるものであります。

現在の日本社会の格差構造・地方受難の時代から、近隣真っ先に駆けて地方復活の時代へと我が橋本市は突き進んでいかなければなりません。

従来の国策としての景気対策の一つは、不況の前兆を見つけるや巨額の財政支出を柱として大量の公共事業を発生させ、冷え込みかけた市中へダイレクトに資金を投入し、景気回復をなし遂げてまいりました。まれには時の大蔵大臣が前倒しで財政支出を開始しますと発表しただけで景気が跳ね上がった時代でもありました。まさに戦後日本経済の青年期ともいうべき元気なぎる時代でありました。

ただし、それぞれの局面で時の政府が行ってきた景気対策はあくまで国内民間経済の動向の火つけ役としての財政支出でありまして、言うまでもなく、主役は自由主義経済国家、日本の民間産業界、またそれを支え続け民間需要を拡大し続けてきた我々一般消費者でありました。

その後20年余の時が流れ、今やそれらの手法も時代の役目を終え、景気回復特効薬の三

本柱と言われてきた公共投資も年々減少の一途をたどってまいりました。

国は地方分権というにしきの御旗を掲げ、自分のまちの景気は自分で何とかしなさいという時代へとさま変わりしてまいりました。まさにそのとき、自分で何とかできる自治体と、できない自治体とがたもとを分かち、自治体間格差、地域間格差が顕著に露呈した格差社会の誕生へと向かっていったわけであります。

気がつけば、本市では公共事業をなりわいとしてきた建設業界が景気回復の足を引っ張っていることも事実であります。国が助けてくれない以上、また財政支出を削減せざるを得ない本市の経済事情なるがゆえに、民間活力の増強によって内需を拡大し、経済を活性化させていかなければなりません。内需がわずかずつでも拡大し、各業種の設備投資が息を吹き返してくれたら、建設業界へもその恩恵が及び始め、本格的な景気回復基調に乗っていけるのでありましょう。

私たちは地方分権という言葉をあまりにも楽天的にとらえ過ぎていたのではないのでしょうか。それが実現すればバラ色の未来が訪れるかのような妄想を抱いていたのではないのでしょうか。地方分権とはまさに自らの力量で生きていきなさいということであるのならば、今のうちに認識を改め、弱い者、知恵のない者は、容赦なく切り捨てられていくサバイバルマッチであると肝に銘じておくのが肝要かと思われます。

近年、日本中の地方都市を憂うつな気持ちにさせてしまった出来事がございました。それは北海道夕張市が財政再建団体に転落してしまったことでもあります。いつの時代も国内には幾つかの財政再建団体を抱えておりますが、たまたま夕張炭坑であるとか夕張メロンとかで知名度が高い市であったため、マスコ

ミがこれを大きく取り上げ、劣悪な行政サービスにあえぐ夕張市民の日常を、異例の頻度で報じ続けました。いつしか夕張市は、地方受難の時代の象徴となり、財政状態の悪い地方都市は「いつか我がまちも夕張に」といった危惧を抱くようになり、市民の心は暗く落ち込み、夕張報道は常に高視聴率をマークし続けました。

本市におきましてもその例外ではなく、あたかも近々財政再建団体に転落するかのような会話を市内あちこちで耳にしたわけでありまして、早急にこの不安感を払拭しなければ景気回復の大きな弊害となってしまいます。

再度申し上げますが、病氣も景氣も氣からであります。

財政健全化のために財政支出を大幅に削減している今このとき、民需の拡大がなければ経済の血液である金が市中を流れなくなってしまう。民需を拡大し、大量の血液を市内くまなく駆けめぐらせ、上向きの兆候を見せ始めたまさにこの時期に、我が橋本市は賢い一步を踏みだし、地方復活の時代の先駆けとなっていかなければなりません。

そこで木下市長に一つの提案がございます。行財政改革集中プラン等々、難解な書いたものを読めと言わないで、市長自らの声で市民に対し、橋本市の財政かくのごととご説明いただけないでしょうか。財政破綻の懸念など要らぬ取り越し苦労であるならばきっぱりと否定していただけないでしょうか。今の時代でありますから「今後も予算削減にご協力をいただかなければなりません」という言葉が頭についてくることは当然でありましょうが、次の言葉に「そのご協力さえあれば、本市の財政は健全に推移してまいります」と声高らかに、脱夕張宣言を唱えていただけないでしょうか。「橋本市元気だ宣言」を発表していただけないでしょうか。

詭弁を弄して民意を誘導してくださいと申し上げているのではなく、必要以上の警戒心を持ち過ぎたあまり、畏縮してしまった市民感情に対し、正確な情報を提供することにより、ひとまずの安心へと導いていただくことをお願いするものでございます。

行政サービスが崩壊しないという安心感が、これからは上向きだという期待感が、活力に変わります。事業主が久々に従業員を増やし事業を拡大してみようかと考え始めます、人々の顔に笑顔をもたらします。あきらめかけていた第2子、第3子の出産がにわかに関心をおびてまいります。市長の一言が、閉塞感にとらわれてきた市民の心に希望を与えます。低迷してきた景氣に元気を吹き込みます、購買意欲が目覚まし、民需が伸び始め、少ない財政支出のさなかであるにもかかわらず、立派に市内経済は立ち直り、待ちに待った税収の伸びにたどり着きます。

先ごろの、新大阪府知事の大胆な財政措置に大阪府民は大きな不安を抱きました、今の大阪府はどうしてもそうしなければならない状況なのに、どうしてもそうはさせてもらえない議論の渦の中で、つついこぼしてしまった青年知事の涙には、確かにお気の毒な一面はございますが、そんな大阪府の現況の中にも、貪欲に本市の利益を探していかなければなりません。

大阪が悪いと言い始めたあえてこの時期に、橋本市がいいと言えどどんな流れが始まるのでしょうか。長年暮らしてきた大阪府下に近々新居を構え、子どもは3人欲しいと言っていた結婚間近のカップルが大阪で暮らすことに迷い始めております。大阪の行政サービスはどこまで落ち込むのだろうか。子育てに支障が出ないのだろうか。思い切って大阪を離れたほうがいいのか。

先ごろ橋本市長が「橋本市元気だ宣言」を

していた、橋本商工会議所会頭が林間田園都市駅－難波駅間30分構想をぶち上げていた。橋本で家を買えば今の会社に勤めながら子どもが3人生めるかもしれない。新しく会社を立ち上げようと工場用地を探していた大阪の事業家が、河内長野より橋本がいいと言い始めた。大阪の不動産業界が先物買いで、一斉に橋本市内の土地を買い始め、半年で開発公社の土地が完売となった。それらの絡みで橋本以上に大阪府民の中から371号線バイパス早期完成の要望がわき上がってきた。今、市長の一言でこのようなことが現実のものとなっていきます。これは木下市長のみが起こすことのできるアナウンス効果なのであります。それにより、どれほど多くの利益が本市にもたらされるかを考えますと、心躍る思いがわき上がってまいります。

公の金を削減しながら、主役である民の活力で景気を押し上げ、豊かな自治体へと成長していく、これこそが賢い行政の究極のテクニック、後々の世に語り継がれるべき木下マジックの始まりであります。

そんな願いを込めまして、ぜひとも私の要望を実行していただけますよう切望し、私の発言を終わります。

なお、私が申しました脱夕張宣言という表現が夕張市民の方々にとりまして、不愉快なものであれば、おわびしなければなりません。ともに厳しい財政運営を強いられている仲間だにご理解をいただきまして、お許しただきたいと思っております。今のご苦労をばねに一日も早くあのすてきな夕張に戻られますことを願ひまして、はるか、はるか遠く離れたこの橋本市議会質問席壇上よりエールを送らせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（中上良隆君） 15番 石橋君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君） 石橋議員の質問に答えたいと思っております。

議員からの大変心強いご提案にまず心から御礼を申し上げたいと思っております。

本市は、豊かな自然環境、景観、歴史文化、ヘアブナのさお、パイル織物と地場産業、あるいはまたすばらしい観光資源が多くあるわけでございます。また、お話がございましたように京奈和自動車道も開通いたしました。この地理的条件を生かし、既存産業の活性化や、企業誘致により、民間活力を導入し、活力ある元気なまちの実現をめざしていかねばならないと思っております。

一方、本市の財政状況でございますが、平成18年度決算における財政指標で見れば、実質赤字比率や連結実質赤字比率、実質公債費比率においても、早期健全化団体や、財政再生団体に該当する基準数値には達していないものの、財政調整基金などの基金を取り崩しておる現状から、依然として厳しいという状況でございます。

しかしながら、集中改革プランに基づく歳出削減は、今後も継続して行うとともに、行財政改革について市民の方にもご協力をしていただきながら、市民と行政により協働のまちづくりを推進することにより、持続可能な行財政運営ができるものと確信をいたしております。

だれもが住みよく住み続けたいような、魅力ある地域を形成し、定住する人を増やし、地域の活力を維持する方策を確立することが、市政の最重要課題であると位置づけておるのでございます。

そのため、本市では企業誘致を核として、橋本市の元気なまちづくりのプロジェクト、橋本市子ども子育てのびのび夢プロジェクト、

橋本市観光振興交流プロジェクト、橋本市安全・安心まちづくりプロジェクト、花と緑のリサイクルの5点を中心といたしまして、和歌山大学の応援を賜りながら、「元気なまち、橋本」の創出に取り組んでまいりたいと思います。

このたび橋本市の将来を示す長期総合計画を策定したところでございますが、橋本市の将来像を市民の皆さまと本計画を共有し、互いに手を携えながら、安心して子どもを産み、育てることができるよう、また、企業誘致でも既に誘致実績も上げているところでございます。さらなる税収増のため、今後も「元気なまち、橋本」をPRし、企業誘致を推進していきたいと考えておるところでございます。

議員の皆さまにおかれまして、私の心意気を十分におくみとりいただき、今後とも、全国に誇れる橋本市を築いていけるようご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（中上良隆君）15番 石橋君、再質問ありますか。

○15番（石橋英和君）ございません。

○議長（中上良隆君）15番 石橋君の一般質問は終わりました。